
その他

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究11
P.106-112 (2023)

2022 年度保健看護学部海外研修報告 ウズベキスタン共和国

Report on Overseas Seminar in the Republic of Uzbekistan in 2022

山本 哲子*
YAMAMOTO Tetsuko

栗原 明美*
KURIHARA Akemi

山下 巖*
YAMASHITA Iwao

要 旨

COVID-19 感染拡大に伴い 2020 年 3 月以降、海外研修の実施が困難な状況が続いていたが、2022 年 3 月より水際対策の見直しにより、ワクチン接種済者の海外渡航緩和の兆しが見え始めたことから、万全の感染予防対策を講ずることを条件に、2022 年 8 月にウズベキスタンにおける海外研修が実施された。

2021 年 2 月より Zoom を活用してタシケント国立東洋学大学 (Tashkent State University of Oriental Studies : 以下 TSUOS と略記) との交流会を開催してきたが、今回の研修に参加した学生からは TSUOS の学生と直接会えたことを喜び合い更に交流を深める姿が伺えた。医療機関の視察では、病院の設備や医療システムなどの違いについて説明を受け、これまで当たり前だと思っていたことが文化や価値観によって相違があることを体感し、視野を広げる機会となっていた。また、日本ではあまり触れる機会の少ないイスラム文化に触れ、イスラム教に対するイメージが変わった学生もいた。研修の様々な場面で、言葉が通じないもどかしさや、通じる喜びを体感し、今後の外国人への対応に活かしていきたいという声も多く聞かれ、本研修は、多様な文化的背景を持った外国人患者に将来看護師として対応する際の一助となり、本学部のディプロマポリシーに繋がるものであったと考える。

索引用語 : 海外研修、異文化理解、やさしい日本語、ウズベキスタン

Key words : Overseas Seminar, Transcultural Understanding, Easy Japanese,
Republic of Uzbekistan

1. はじめに

COVID-19 感染拡大に伴う水際対策として、日本政府は 2020 年 3 月 21 日より検疫法に基づき「隔離

(入院)・停留が必要となる場合があるほか、検疫所長が指定する場所 (自宅等) において 14 日間の待機を要請」され、「入国拒否対象地域に滞在歴のある者には全員に PCR 検査が実施」されることとなった¹⁾。その後、感染拡大状況の変化に伴い入国制限が一段と強化され、2021 年 11 月 30 日からは、一部例外を除き外国人の新規入国が停止 (査証発給済者を含む) とな

* 順天堂大学保健看護学部

* *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

(Dec. 9, 2022 原稿受付) (Jan. 26, 2023 原稿受領)

り²⁾、事実上、外国人が日本に入国することができなくなった。世界各国においても同様の厳しい入国規制が敷かれ、COVID-19 感染拡大以降、諸外国との行来が厳しい状況となり、本学部海外研修の実施が困難となった。実際に、例年3月中・下旬に実施していたフィンランドの医療視察研修は、2020年3月以降、実施できていないまま現在に至っている。

学生への異文化理解の場の提供について国際交流委員会で検討し、本学部は2021年2月よりWeb会議サービスのZoomを活用して、ウズベキスタン共和国のTSUOS日本語学部とオンライン交流研修を開始した。この研修は、①相手国について理解を深める②自国の魅力の再発見③異なる文化をもつ仲間とのコミュニケーションの取り方について学びを深めるという三つの目標を掲げ開催した。これまでに、2021年春・夏、2022年春と研修を重ねながら、TSUOS学生との交流を深め、本学部生からも実際にウズベキスタンへ行ってみたいとの声が聞かれるようになった。

2022年に入り、感染者数が次第に減少傾向を見せ始めると、同年2月4日付の文部科学省の通知において、大学間交流等に基づく1年未満の海外留学プログラムについても、参加学生の安全に万全を期すことを前提に実施が許可された³⁾。また3月より水際対策の見直しが行われ、ワクチンを3回接種している場合、入国3日以内に受けた検査結果が陰性であれば入国後3日目以降の自宅待機が求められなくなった⁴⁾。さらに4月以降ウズベキスタン（総人口約3,340万）の一日の感染者数は、約50人程度と安定的に良好であった。同時にワクチン接種済者の海外渡航緩和の兆しが見え始め、本学部と大学本部との検討の結果、3回のワクチン接種完了後ワクチンパスポートを所持し、渡航直前に受けるPCR検査結果が陰性となることを参加条件とするなど、万全の感染予防対策を講ずることを条件に、2022年8月にウズベキスタンにおける海外研修実施が新井学長より許可された。

II. 研修について

1. 研修地決定の経緯

中央アジアのウズベキスタンという日本人にはあまり馴染みのない国を研修地に選んだ経緯について簡単にふれておきたい。本稿筆頭執筆者が、2006年から2年間、JICAによりタシケント市内の病院に看護師として派遣された経験を有し、ウズベキスタンの医療事情に精通していた。さらにTSUOSのエリオール・マチャノフ（Elyor Matchanov）日本語学部長や日本人講師の石村育美先生との親交があったため、現地との綿密な情報交換を図りながら研修計画を立案することが可能であった。ウズベキスタンは古くから東西交易の要衝として繁栄し、参加学生がイスラム文化遺産に触れることが大いに期待できた。また、ロシアのウクライナ侵攻による影響を危惧する声もあったが、現地の日本企業駐在員からも余波を受ける可能性は極めて少ないという情報を得た。以上を検討し、本研修を安全に実施できると判断した。

2. 研修目的

本研修は、本学部のディプロマポリシー（以下DPと略記）の一つである「グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うため、国際的視野を持ち異文化を理解する能力」を身に付ける一助として実施された。COVID-19感染拡大前の2019年6月末の日本国内在留外国人数は282万9,416人で、前年に比べ9万8,323人（3.6%）増加し過去最高となり、国籍別の対前年末増減率ではベトナム（12.4%）、インドネシア（8.4%）、ネパール（4.3%）の順で高く、これまで多くを占めていた中国、韓国・朝鮮、ブラジル、フィリピン以外からの在留者が増加していた⁵⁾。多様な国籍の外国人が患者として受診することも増えていることが推測され、本学部生にとっても在学中に在留外国人患者への適切なコミュニケーション能力を身に付けることは重要であると考え、以下の五つの研修目標を

立てた。

【研修目的】

- ①日本語初学者との適切なコミュニケーションの取り方を体感し学ぶ
- ②ウズベキスタンの主要宗教であるイスラム文化を体感し学ぶ
- ③ウズベキスタンの医療事情、健康問題について考える
- ④ウズベキスタンと日本の歴史について学ぶ

⑤外国人からみた日本について考える

本研修は異文化理解や国際的視野を持つきっかけとなる研修と位置付けていることから、参加要件は特に設けず、全学年参加可能とした。海外研修説明会（ウズベキスタン以外の研修も含む）には約70名の学生が参加し、海外研修に興味を抱いている学生が多いことが窺えた。その後、ウズベキスタンでの研修に関する説明会、保護者説明会を実施し、今回は19名（1年生2名、2年生7名、3年生4名、4年生6名）の

表1 2022年度 海外研修日程表

2022年	曜日	時刻	滞在地	行動
出国3日前				出国前PCR検査
8月17日	水	10:00	(現地時間)	成田国際空港国際線ターミナルに集合
		13:10		ウズベキスタンへ出発
		15:40		途中ソウルにて乗り継ぎ
		17:05		首都 タシケント国際空港に到着
8月18日	木	8:30	サマルカンド	特急アフロシヨブ号にてサマルカンドへ移動
		10:44		サマルカンド駅に到着
		午後		サマルカンド州立医科大学訪問
				世界遺産見学：アフロシアブの丘
8月19日	金	午前	サマルカンド	世界遺産見学：レジキスタン広場、グル・エミル廟、ビビ・ハニム寺院等
		午後		中級医療従事者高度訓練センター訪問
8月20日	土	午前	シャフリサブス	アミール・ティムールの生誕地訪問
		午後	サマルカンド	サマルカンド市内見学
8月21日	日	午前	サマルカンド	専用バスにて移動（約5時間）
		午後	タシケント	
8月22日	月	午前	タシケント	タシケント国立東洋学大学日本語学部との交流会
		午後		
8月23日	火	午前	タシケント	帰国前PCR検査
				ウズベキスタンイスラム大学訪問
		午後		タシケント市立第一病院訪問
				タシケント小児研究所大学訪問
8月24日	水	午前	タシケント	ナボイ劇場、日本人墓地訪問
		午後		タシケント市内観光
		22:15		日本へ出発
8月25日	木	8:45	(現地時間)	ソウル到着、乗り継ぎ
				成田国際空港到着
		11:50		現地解散

学生が参加した。

3. 出入国時および研修国滞在時における感染予防の徹底

前述の通り、入国に係る水際対策が緩和される中、渡航日の8月17日の時点でウズベキスタンから日本への帰国時には自宅待機の制限はなかったが、3回のワクチン接種証明書と現地（ウズベキスタン）出国前72時間以内のPCR検査陰性証明書の提出義務があった⁶⁾。一方で、ウズベキスタンへの入国規制は特に求められなかった。しかしながら、現地での発症を予防するため、研修参加学生及び引率教員には出発3日前のPCR検査陰性証明と2週間前からの健康管理表の記入を本学部独自に課し万全を期した。出国に向けてのコロナ対策の重要性を各参加学生が理解・自覚し健康に細心の注意を払ったこともあり、事前PCR検査は全員が陰性で揃って無事に出国することができた。

研修中は、各自、毎朝健康チェックを行い、その結果を各グループの健康管理リーダーがとりまとめ、引率教員に報告を行うようにした。食事の際には原則同じメンバーで座るようにし、黙食を促した。研修3日目頃より食事や疲労に伴う下痢症状がみられる学生が増え始めたが、発熱者が出た際には抗原検査キットで随時検査を行い、陰性であることを確認した。体調不良者が出る中で実施した帰国前72時間以内のPCR検査では全員が陰性であり、COVID-19に感染することなく無事に研修を予定期間で終えることができた。本学部は夏季休暇期間中であったが、大学の規定に則り、帰国後3日目のPCR検査が陰性であるか、帰国後1週間の自宅待機を経て症状が無いことを確認後に通学することとした。

4. 研修内容

1) TSUOS 学生との交流会

今回の研修では、本学部生3～4名、TSUOSの

学生2～3名で1グループになり、半日をかけて、TSUOSで日本語教育を担当する石村育美先生が準備したミッションをクリアしながら、公共交通機関を利用してタシケント市内の観光スポットを巡り、現地の人々の生活について学びを深めた。ウズベキスタンではマスク着用の義務はなかったが、一緒に関わるTSUOSの学生にはマスク着用をお願いした。

TSUOSはウズベキスタンにおいてトップクラスの日本語学部であるが、今回は1～3年生が参加していたことから、日本語レベルが日本語を習い始めたばかりの学生から奨学金で日本に留学が決定している学生まで様々な学生がいた。異なる日本語レベルの学生がいたことで、「やさしい日本語」をはじめ、伝わりやすい日本語の話し方を工夫した円滑なコミュニケーションが求められた。参加学生からは「日本語でウズベキスタンの人と話すことができ嬉しかった。言語が通じて互いにコミュニケーションがとれ、ワクワクした。」「移動時間に会話し、お互いのこと学校のことを話し、ウズベキスタンでの常識や価値観にも触れることができた。反対に日本のアルバイト事情や物価などについて話し、現地の学生は驚いていた。日本語の習熟度には個人差があり、私たちも英語が未熟であるため、現地学生に意思疎通できないこともあった。」といった声が聞かれた。国立国語研究所が日本在留外国人に行った調査⁷⁾によれば、日常生活に困らない言語（複数回答可）として61.7%（1,026人）の人が日本語をあげ、2位に英語をあげているもののその数は36.2%（601人）に留まり大きな差がある。これは日本語教室や国際交流協会などに来る人々が回答者の多くを占めていたこともあるため、そういった場に来ない人々とは傾向が異なる可能性がある指摘しているが、在留外国人とのコミュニケーションでは日本語を使用することが望ましいと推測される。今回の研修参加学生たちは、様々な日本語習熟度レベルのTSUOS学生との交流を通じ、試行錯誤しながらもコ

コミュニケーションを取ることを楽しさを感じ、一方でコミュニケーションが取れないもどかしさも体感していたようであった。

研修後の本学部生のアンケートでは「日本にいる時に Zoom で交流し、SNS でも会話していた子と実際に会ってとても感慨深かった」との声も聞かれ、実際に対面で会えた喜びを分かち合っていた。これまでのオンライン研修をきっかけに、主体的に学生同士で SNS を使用し交流を続けてきた様子が窺えた。

写真1 タシケント国立東洋学大学 (TSUOS)



2) 医療機関の訪問

今回の研修では在日ウズベキスタン大使館の協力を得て、4ヶ所の医療機関を見学することができた。

サマルカンドではサマルカンド州立医科大学、中級医療従事者高度訓練センターを訪問した。サマルカンド州立医科大学は、ウズベキスタンの中でもトップクラスの医科大学であり、最新の学習支援機器が揃えられている一方で、ソ連時代の献体のホルマリン漬けを見学させて頂く機会を得た。一番印象に残っている訪問先にあげる者もあり、学生にとってもウズベキスタンの看護教育制度や同じ医療を学ぶ学生の生活を垣間見ることができたようである。しかし、夏季休暇中の訪問であったため、学生からは医療を学ぶ学生との交流も行ってみたいとの声も聞かれ、今後の検討課題としていきたい。

タシケントでは、タシケント市立第一病院、タシケント小児研究所大学を訪問した。タシケント市立第一病院では、院長が出迎えてくださり、一般病床とICUの見学をさせて頂いた。病室にバルコニーがあることや家族が患者のケアを行う事が多い事など、日本の医療機関や看護の相違を体感し、基盤には文化や価値観の違いが関係していることについて学びを深めていた。

3) 文化遺産・市内見学

今回、タシケントとサマルカンドの二都市を訪問した。

タシケントでは TSUOS との交流と医療機関の訪問以外に、第二次世界大戦時の日本人抑留者が建設に携わったナボイ劇場と日本人墓地を訪問した。代々の日本人墓地管理者から、これまでの両国の歴史や関係について解説して貰い、現在の両国間の友好と親善は、抑留された先人達の血のにじむ思いの上に築かれていることを学んだ。

現在、タシケントでは近代化が進んでおり、至る所でビルが建設されているが、サマルカンドは文化交差点として世界遺産に登録されており、旧市内にあるレジスタン広場をはじめ、ティムール朝時代の歴史文化遺産が多く保存されている。滞在したホテルは旧市内にあり、バザールや様々な文化遺産が徒歩圏内にあったため、自由行動時間を利用して多くの学生が街頭やバザールで地元の人たちと交流する機会があった。しかし、ウズベキスタンの公用語はウズベク語であり、市内で日本語はもちろんのこと、英語でも通じやすい状況とは言えなかった。また、最近ではスマートフォンに搭載可能な翻訳アプリが様々あるが、日本から持ち込んだ Wi-Fi が殆ど繋がらず、ホテル以外ではインターネットが使えない状況であった。そのため、図らずとも学生は身振り手振りでコミュニケーションをとることとなり、言語が伝わらないもどかしさを体感することとなった。一方で、シルクロードの要衝地であったことから、ウズベキスタンの人々にはお客さんを大

切にもてなす文化が根付いており、困っている人がいれば手を差し伸べてくれることが多い。自分達がいいたいことを何とかして理解してくれようとする現地の人々の熱心な姿勢に、自身のコミュニケーションの取り方について内省した学生も多く、臨床で外国人患者を見かけた際には「理解したいという姿勢」を大切に、コミュニケーションを取っていきたくと話す学生もいた。

ウズベキスタンにはイスラム教徒が多く、イスラム教に基づいた生活習慣に触れたことは言うまでもない。またイスラム文化遺産や建造物が街中の至る所に散在し、学生はそれらを目の当たりにすることで、イスラム文化にごく自然に触れることができた。アンケートでは「現地の方の話を聞いてイスラム教に対する考えが変わった。悪いイメージがあったけど、全くそんなことはなかった。」と回答した学生もおり、インターネットやテレビからの情報だけではなく、自身で実際に見て得る事の大切さを感じているようであった。

写真2 サマルカンド旧市内にて



5. 研修の課題

今回の研修は COVID-19 の感染拡大下であったこともあり、様々な懸念がある中で行われたが、多くの教職員の方々にご配慮を頂いて実施に至った。幸いにも研修参加学生が COVID-19 に一度も感染すること

なく研修を遂行することが出来たが、5名が発熱と下痢症状で現地の医療機関を受診し点滴を受けた。今回初めての試みとして、8月中旬から下旬にかけて開催したが、2年生は基礎看護実習Ⅱ、3年生は演習を伴った講義が帰国後すぐに予定されており、体調面からそれらに参加出来るかについての懸念も生じた。来年度以降は開催時期を検討する必要があると考える。

III. おわりに

今回の研修では1～4年生が参加していたことから、TSUOS との交流では学年を交えた小グループを編成した。この交流会までは同学年の気の知れた仲間でも過ごしている学生が多い印象であったが、TSUOS の学生との交流を契機に学年を超えて話す姿を多く見かけるようになった。学生からも、TSUOS の学生だけでなく、他学年と繋がりをもてた事も良かったことの一つであるとの声もあり、縦の繋がりを深める機会ともなったのではないかと感じる。

帰国後いくつかの改善点も見えてきたものの、学生の事後アンケートでは、全員がこの研修を「オススメする」と回答しており、自ら体験したウズベキスタンの人々との交流について嬉々として話す様子を見る限り、本研修は異文化理解を深める機会となり得たことを確信する。また本研修は、多様な文化的背景を持った外国人患者に将来看護師として対応できるだけの異文化理解力涵養の一助となり、ひいては本学部 DP 達成に繋がるものであったと考える。

引用文献

- 1) 厚生労働省 (2020.3)：水際対策の抜本的強化について (新型コロナウイルス感染症)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00098.html>
- 2) 内閣官房 (2021.11.29)：水際対策強化に係る新たな措置 (20)

<https://corona.go.jp/news/pdf/mizugiwataisaku1_20211129.pdf>

- 3) 文部科学省 (2022.2.7) : 留学中の・留学予定の日本人学生の皆さんへ

<https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1405561_00001.htm>

- 4) 内閣官房 (2022.2.24) : 水際対策強化に係る新たな措置 (27)

<https://corona.go.jp/news/pdf/mizugiwataisaku_20220224.pdf>

- 5) 出入国管理庁 (2019) : 令和元年6月末現在における在留外国人数について

<https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/nyuukokukanri04_00083.html>

- 6) 内閣官房 (2022.2.24) : 水際対策強化に係る新たな措置 (28)

<https://corona.go.jp/news/pdf/mizugiwataisaku_sochi28r_20220727.pdf>

- 7) 独立行政法人国立国語研究所 (2009.5) : 「生活のための日本語：全国調査」結果報告速報版

<https://www2.ninjal.ac.jp/past-projects/nihongo-syllabus/research/pdf/seika_sokuhou.pdf>